新潟市立木戸中学校

学校データ
【学級数】
１７学級
【児童生徒数】
４９１人
【地域コーディネーターの有無】
有

地域を発展させる一員としての自覚と誇りをもつ生徒の育成

１　はじめに

当校の地域教育プログラムの目標は、「地域や社会、世界と自分とのかかわりに目を向け、現代的な課題と自己との関係を意識しながら、よりよい社会の在り方、自己の在り方を探求し続ける生徒の育成」である。

また目指す生徒像は､「探究に必要な情報の収集、分析、整理、表現のための方法や技能、仲間と協働するための態度や方法を身に付け、よりよい自己や社会の実現に積極的に取り組む生徒」である。

そこで、自分の住む地域の実情を知った上で地域をより発展させていきたいと考え、地域とともに歩み、地域に愛される生徒を育成するため、３年間が一連のプログラムになるよう､「地域」をキーワードに活動を展開する。

１学年・・・「地域」を知る活動
２学年・・・「地域」の実情と他地域の工夫を知る活動
３学年・・・「地域」課題の解決策を提案する活動

地域教育コーディネーターは、地域とのネットワークづくり、地域人材の参画支援など、学校支援活動を中心に積極的に取り組んでいる。

２　取組の実際

(1) １学年「地域」を知る

①新潟フィールドワークⅠ

コミュニケーション能力（仲間と協働するための態度や方法）を伸長させ、仲間づくりや集団づくりに努めるため、研修施設等で体験学習的な活動を行う。

②職業講話

職業調べと合わせ、様々な人の生き方を学び、「地域」への興味・関心を高め、「地域」を知ることにつなげる。

ハローワーク職員様より講話

(２) ２学年「地域」の実情と他地域の工夫を知る

①新潟フィールドワークⅡ

実際に地域で生きる人たちに直接触れることを通して、６つの視点（※）から「地域」の実情を知った上で課題をもち、探求活動につなげる。

※６つの視点
[にぎわいと活力][観光と文化振興]
[やすらぎと環境][国際理解]
[福祉][安心・安全と防災]

②東京フィールドワーク（修学旅行）

官庁や大手企業、大学など多方面の訪問先でインタビュー活動や見学を行う。

直接触れた首都圏の取組やその特色、人々の生き方について学ぶ。

外務省

（３）３学年「地域」課題の解決策を提案する

①新潟フィールドワークⅢ

２学年時に始めた地域課題について、首都圏と新潟市や東区とを改めて比較・検討することを通して、新潟市や東区の良さや課題について明らかにしていく。

②まとめ（提案発表）

６つの視点ごとに、新潟市や東区のよりよいまちづくりについて考え、提案・発信する活動を行う。

提案発表会

例）SNS で東区自慢を継続的に発信

（４）その他

①校長講話（「地域」を学ぶ良さの総括）

校長先生の講話

②地域教育コーディネーターを窓口とした地域貢献活動

クリーン作戦

こいこいフェスタ

３　成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

(1) 本実践で育成された資質・能力

＜知識・技能＞

インターネットや書籍などの情報を理解し、活用することができる力

・職員肯定的評価 73%(R2)→80%(R3)

＜思考・判断・表現＞

地域の方へのインタビューや仲間との意見交流を通して、自分の考えを深めたり修正したりしながら、課題解決のための考えを表現できる力

・生徒アンケート「地域の大人から話やアドバイスを聞き、わかったりできたりすることがよくある」

68.3%(R2)→74.0%(R3)　※同一生徒集団

＜学びに向かう力・人間性＞

地域にふれ、地域を調べる学習に意欲的に取り組む姿勢

・生徒アンケート「地域のことにふれたり、調べたりする学習は好きです。」

74.6%(R2)→77.4%(R3)　※同一生徒集団

（２）成果

振り返りの記述や感想から、地域のことをもっと知りたいという、当事者意識の高まりが感じられる。また、地域の行事に意欲的に参加する生徒が増えている。

（３）課題

ＣＳへの移行を通して、地域の声をさらに踏まえた活動として確立させていく必要がある。

４　おわりに

卒業後も、地域に目を向け、地域課題解決のために貢献できる、自立・自律した社会人として活躍していってほしい。

※Ｒ２～３年度はコロナ禍のため、行き先変更などをしながらの実践となりました。本原稿は計画通りに実践できたものを紹介しました。